

4 本校の実態

(1) 学校と地域

葛渡小校区は、水俣市の東部に位置し、旧深川、湯出、久木野の各校区に挟まれた山間の里である。豊かな水に恵まれており、稲作を中心としてお茶やサラダタマネギ等の栽培が盛んである。特にお茶の生産量は水俣一を誇っており紅茶も生産されている。

児童が在籍する行政区は、宝川内（10区）、市渡瀬（11区）、石坂川（12区）、葛渡（13区）、薄原（14区）の5地区と旧深川小校区（9区・7区の一部：特別地域）である。

本校は、創立140年以上の歴史ある学校で現在の校舎は、昭和48年に落成された。また、隣接している緑東中と共用している体育館は昭和58年、プールは昭和62年に建設された。研究も積極的に行っており、平成24年度に「生きる力を育む」学力充実研究推進校（県教委）市学力向上プロジェクトにおける学力向上研究推進校（市教委）に指定され、翌年発表を行った。また、平成26年度から学校図書館活用推進校（市教委）に指定され、2年間の研究の成果を平成27年11月30日に発表を行った。

保護者や地域の教育に対する関心と期待は大きく、昭和44年に葛渡小中学校後援会、平成4年には「葛渡中校区子どもの健全育成を考える会」が組織され、学校やPTAと連携しながら児童の健全育成のための様々な活動が活発に行われている。中学校再編成後、平成24年度からそれぞれの学校ごとの後援会組織となっている。また、平成26年度から3年間、緑東中学校区学校支援地域本部事業が実施された。

児童の登下校等の安全確保に関しても、地域内に「子ども110番の家」の30カ所設置や、あいさつ運動、街頭指導など日頃から協力をいただいている。

水俣市地域学校協働本部の設置に伴い、地域教育コーディネーターを中心に地域の方の協力を得ながら様々な教育活動を行っている。

(2) 家庭

本年度PTAの会員数は31軒（5月1日現在）で昨年度より増加している。本校出身で、学生時代から学年を超えて交流してきた保護者が多く、保護者間の連携もスムーズである。PTAの活動として、学校と協力して「ノーテレビ・ノーメディアデー」や「家庭版環境ISO」の取組を行っている。

また、学校行事への参加率は高く、授業参観や奉仕作業等へは、ほとんどの家庭が参加している。全般的に学校の諸活動に対して協力しようとする意識は高い。

ただ、少子化や核家族化の影響もあり、本校の家庭においても次第に過保護になってきた印象を受ける。本来、家庭が責任を負うべき基本的な生活習慣や子育てを学校に依存する傾向も窺え、児童の自立を促し、心の耐性を培うためにも保護者への啓発が必要と考えている。